

海鳴32号(2014.05)

里山&棚田の生きものたちの魅惑 *Fascination of the Creatures which are Imminent in Village, TANADA*

岩崎行伸*

南北に延びる日本列島は、多様な気候・季節・地形に恵まれて、多くの生きものが周年棲息している。青い空、清澄な空気、樹木の葉、小川のせせらぎ等々。これらの言葉から、どのような想像力が浮ぶだろうか?、「原生林」や「里山の景観」、それとも「都会の現空間」であろうか?、大切なものは目には見えない。だから心で読みとるんだと、星の王子様に教えてくれたのは、狸であった。目には見えないからこそ、できる限り想像し、想う心が大切であろう。「心で見る」景観は、人それぞれの癒しの形である。想像力の違いは「生きものや自然界」について間違った想像力を生み出すかもしれない。



Photo by Y. IWASAKI

図1. 上段: 里山・棚田景観(上倉沢/菊川/静岡)、中段: キイトンボ
(6/10, 菊川、ニホンアマガエル(6/5, 菊川、アキアカネ(8/15, 菊川)、下段:
棚田・里山景観(石部/松崎/西伊豆)

我々は、目の前の損得のみを追求しがちである。今、住んでいる土地に、かつては多くの生きもの・水棲種・野鳥・蝶・蜻蛉・昆虫等が棲んでいたことも、身近に多くの生物が生き続けながれ繁殖・進化していることも、忘れてはならない。

自然は、何時も我々の身近にあって、この環境が生活と密接に関係している。春季から夏季、そして秋季から冬季へと四季折々がめぐる自然界のサイクルの中で、多くの様々な生ものたち生命の営みが行われていることを知る。しかし、知っていること以上に、知らないことのほうが多い日々と実感している。ここでは、その自然環境とくに生きものたちの魅惑を、身近に親しむための入門である。

里山の散歩道で多くの名も知らない生きものとの出会いや木々が生きる森・樹木、そこを源流とする清流に棲む生きものたち。あらゆる生命を育む自然環境というフィールドには、不思議・魅惑と面白さとダイナミックな感動が溢れている。

種を飛ばし、花や木の実を落とす植樹木の生き残る生態、他のものに姿態を似せて危機から身を守る昆虫の巧みな擬態習性。このような生きもののライフスタイルに驚嘆しながら知り学ぶことが多いことである。

効率優先の土地開発利用、自然災害等、自然環境悪化の中で、年々、絶滅の危機に直面している植物や生ものたちが増加している。生きものたちが生きぬく場の環境は、我々ヒトにとっても生きにくい場の環境となってしまうであろう。

一つ一つの生命に向き合うこと、それに、ヒトが自然環境を心から愉しむことが自然環境を保護・保全に繋がることと思う。

まずは、楽しい自然ウォッチングに出かけることを薦めたいものである。

参考図書

- 1) 自然観察入門（1975）：中公新書、日浦勇著
- 2) 自然大博物館（1992）：地球の姿・鳥類・昆虫、小学館、
相賀徹夫編集
- 3) 海鳴会（2007）：蛍舞う里山景観と生き物たち、
geocities.jp. 岩崎行伸著
- 4) 水棲環境研究会（2009）：静岡の棚田研究、静岡新聞社、
静岡県農林技術研編

*会員：自然観察研究会（水棲環境研究）